

地域連携・がん相談支援センターだより

Regional alliances and support

2015

52号



秋桜(撮影者：放射線科部長 永倉久泰)

目次

2. 地域医療構想に向けて
当センターの役割を考えています
4. 連携医療機関のご紹介 「れんけいの輪」
6. 第10回KKR札幌循環器セミナーを終えて
7. 地域連携講演会のお知らせ
8. KKR札幌医療センターの理念・基本方針
編集後記
地域連携・がん相談支援センター職員一覧

同封：KKR札幌医療センター地域連携講演会のご案内



地域医療構想に向けて 当センターの役割を考えています

副院長 磯部 宏
地域連携・がん相談支援センター長

日頃、連携いただいている諸先生方には格段のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。地域連携・がん相談支援センターよりご報告とお願いを申し上げます。

最近、各地で「地域医療構想（ビジョン）」や「地域包括ケアシステム」のお話しを伺う機会が多くなってきました。当院でも病床の医療機能（高度急性期、急性期、回復期、慢性期）等を北海道に報告し、将来の地域における効率的かつ効果的な医療提供体制を検討しております。さらに社会の高齢化や複数の慢性疾患を抱える患者の増加を考えると、時代は「病を治す」から「生活を支える」医療への転換も明らかであり、良質な医療提供のためには、地域医療に携わる先生方との連携がさらに必要になってくると痛感しております。従いまして、これからの当院の医療機能の在り方も、病院全体で考えると共に、連携いただいている諸先生方のご意見も是非にお聞かせいただかなければならないと考えております。機会がある毎にご意見・ご要望を賜りますようよろしくお願いいたします。

その中にありましても、当院の地域連携・がん相談支援センターはこれまでも「地域完結」の医療を目指して活動してきました。連携いただいている諸先生方に再度現状をご紹介し、今後のあるべき姿へのさらなるご提案をいただければと考えております。

以下、各担当責任者より現状を簡単にご報告いたします。

地域連携室

当院地域連携室には、看護師3名、医療事務員2名、事務員1名が配置され、地域の医療機関との受診や入院の連絡調整を行っております。

地域連携室は、地域の先生方と連携し、それぞれの機能を分担してより良い医療サービスを提供する目的で平成12年に開設され、現在医科連携医20

1名、歯科連携医85名の先生が連携医として登録していただいております。

地域連携室の主な業務内容としましては、下記の通りです。

- ・外来受診の事前手続き（医師間の連絡調整・橋渡し）
- ・画像診断（CT・MRI・RI等）、内視鏡、エコー等の検査予約
- ・入院依頼の対応（予約・緊急時のベッド調整）
- ・睡眠時無呼吸症候群検査の相談・予約
- ・セカンドオピニオンの相談・予約
- ・がん診療連携拠点病院として、がん地域連携パスの対応
- ・地域医療支援病院として、共同診療の調整・対応
- ・症状の安定した患者様の地域の医療機関への紹介（逆紹介）
- ・返書の問い合わせ等の窓口
- ・講演会、院内研究会、症例検討会等に関する案内
- ・地域連携・がん相談支援センターだよりの発行

最近では症状の安定した患者様の地域の医療機関への紹介が多く、連携医の先生方を中心に行っております。患者様にも十分説明し納得された上でご紹介しておりますが、中には不安や見放され感を持っている患者様もおりますので、何かございましたら地域連携室にご一報下さい。地域完結型医療を目指し、連携医の先生方と顔の見える連携を行っていきたく思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。（湯瀬 美佳子）

医療社会事業相談室

当院には、医療ソーシャルワーカー（いわゆるMSW）が3名配置されております。「医療ソーシャルワーカー」とは、病気に関して起こる様々な心配事について、患者さんやご家族などのお話を伺い、

一緒に考え、患者さんが少しでもその人らしい生活が送れるように、院内、院外の他職種と連携して援助を行う専門職種です。

「主な相談内容」は、下記のとおりです。

- ・退院後の療養先の選定相談
- ・転院相談調整（新規での転院先選定相談はもちろん、紹介元の病院、施設へ戻っていただく日程調整なども含め担当しております）
- ・透析通院先の選定相談、調整
- ・自宅退院の際の環境整備、訪問看護、訪問診療等の相談調整
- ・介護保険や身体障害者手帳などの公的制度の活用方法の説明、相談
- ・医療費、生活費などの経済的な相談
- ・他院からの緩和ケア病棟への入院相談窓口
- ・がん診療連携拠点病院としての「がん相談」窓口

地域の医療機関や介護保険関係などの機関の方との連携も多く、日頃より大変お世話になっております。微力ですが、お役に立てることがございましたら、ご相談ください。（松田 知恵）

在宅看護・退院支援室

在宅看護・退院支援室には看護師3名が配置されています。主な業務内容は入院中の患者さんの退院支援や退院調整をMSWと協働し行っています。また、退院後の患者さんの訪問看護に伺っています。

訪問看護サービスの具体的な内容としては下記になります。

- ・病状・障害の観察、健康管理
- ・療養・看護・介護方法のアドバイス
- ・食事ケア、水分・栄養管理、排泄ケア、清潔ケア
- ・リハビリテーション（入院中のリハの自宅での継続）
- ・家族等介護者の支援
- ・褥瘡や創傷の処置
- ・カテーテルなど医療機器管理（ポートからの24時間点滴や持続皮下注等）
- ・医師の指示による医療処置（浣腸、導尿、胃管挿入等）
- ・保健・福祉サービスなどの活用支援

現在早期退院調整が求められる中で、医療依存度の高い患者さんや調整が整わずに退院する患者さん、不安の強い患者さんが増えてきています。そのような患者さんが当院の訪問看護を利用することで、主治医との連携が退院後も密に取れ、在宅療養

の継続が可能になると考えています。基本的には当院の医師からの指示書で訪問看護に伺っています。在宅療養についてなど、お役に立てることがありましたらご相談ください。（福島 綾子）

看護相談件数と相談内容

当院地域連携室では、業務の一環として看護相談を行っております。平成26年度（H26年4月～H27年3月迄）看護相談窓口寄せられた相談延べ件数は、669件でした。その内訳は、受診科に関する相談が367名（55%）、次いで疾患に関する相談59名（9%）、検査・治療・処置に関する相談44名（7%）、苦情43名（6%）、社会資源の活用23名（3%）、経済的問題に関する相談18名（3%）の順で、その他115名（17%）でした。受診科に関する相談が多い理由としては、当院診療科が専門化・細分化されているためにこんな症状はどの科を受診していいのかわかりにくいという質問が数多くありました。

看護相談件数を男女別に見ると男性253名(38%)に対し、女性は416名と(62%)という結果でした。男女別では、互いの配偶者の病気に関する不安や思いやりを感じさせる相談が多くありました。

看護相談件数を年代別に見ると、一番多い年代は70代214名（32%）、次いで60代122名（18.2%）、50代87名（13%）、30代83名（12.4%）、40代65名（9.7%）という結果でした。相談者の年代は、70代、60代という高齢者が多く相談内容は受診科の相談や疾患に関すること、更に検査・治療・処置など様々な相談が半数を占めているという結果でした。（島田 久子）

ー〇メッセージ： 外科からのメッセージ

消化器がん、肺がん、乳がんで治療が必要な患者さん、腸閉塞、アツペ、ヘルニア、胆石・胆嚢炎、気胸が疑われる患者さんなどで、迷われたらまず当院外科へ御紹介ください。当科での診断、あるいは加療が必要なケースは、治療経過等を後日ご連絡いたします。また、他科コンサルトが必要と判断されるケースでも、責任をもって対応させていただきます。

外科・消化器外科 武田 圭佐

連携医療機関のご紹介 「れんけいの輪」

日頃、連携をさせて頂いている当院の連携医の先生を紹介します。

今回は、「小笠原クリニック 澄川診療所」の「内科」中井 之人先生と「皮膚科」竹中 ちひろ先生をご紹介致します。

小笠原クリニック 澄川診療所 内科

院長 中井 之人

〒005 - 0004 札幌市南区澄川4条3丁目5-3
☎ 011-831-1200 Fax 011-831-1233

当院は平成17年に、南区を中心に展開する医療法人五月会により澄川に開設されました。おかげさまで、今年で丸10年となります。私は当初より、内科一般のプライマリケア、特に循環器系の疾患と、それに深くかかわる生活習慣病の管理に注力してまいりました。大学での研究テーマが動脈硬化であったことから、やはりこの分野には思い入れが強いです。

患者さんの多様なニーズに応える体制作りには、KKR 札幌医療センターとの病診連携は、私の日々の診療において不可欠な要素であり、日頃お世話になっている先生、スタッフの皆様にはあらためて、この場を借りて感謝申し上げます。患者さんのニーズに応えるべく、丁寧に問診し、個別のアウトプットを提供する。手に余るケースは確実に紹介などのアレンジをする。診療所に勤める者であれば、当然の姿勢ですが、果たして及第点に達しているのかどうか。10年という歳月の中で、時に生じる「予期せぬ問題」のいくつかは、「予期しうる問題」であったかもしれません。診療の質を維持・向上できるように、日々、目の前の患者さんに学びながら、自問自答しながら、これからも精進してまいりたいと思います。

蛇足になりますが、私には、表向きではない、基本方針があります。それは、「うまい・やすい・はやい」。某牛丼チェーン、Y屋のキャッチフレーズそのままであるのは、ご存じの方も多いと思います。陳腐に感じる方も多いとは思いますが、十年前に当診療所を立ち上げたころ、広島で家庭医をされていた、自称”万年研修医”こと、故・田坂佳千先生が、インターネット上で何度も自身のモットーとして、このフレーズを取り上げられていました。当時、日々暗中模索であった私には、自分に求められている役割もこれだ、と腑に落ち、これまでやっ



てきました。微力ではありますが、これからも、なるべく良質な医療を、余計な医療費はかけず、できるだけ待ち時間を少なく、と意識しながら診療していきたいと思っています。とはいっても、混みあってくると分身の術は使えるはずもなく、結果1時間以上お待たせすることもあるなど、どうにもならない時もあるのですが・・・

小笠原クリニック 澄川診療所 皮膚科

院長 竹中 ちひろ

〒005 - 0004 札幌市南区澄川4条3丁目5-3
☎ 011-831-1203 Fax 011-831-8333

小笠原クリニック澄川診療所皮膚科は 2010 年 2 月に開院し、現在 5 年目を迎えました。当院は美容皮膚科を標榜しており、女性の肌トラブルの患者様が多いのが特徴です。

シミやニキビへのレーザー・IPL 治療、レチノイドを使ったスキンケアプログラム、シワやたるみへのボトックスやヒアルロン酸注入などの治療に加えて、体の内面から肌の状態をよくするため漢方治療、分子栄養療法、遅延型アレルギー検査による消化機能の評価、美容注射、サプリメント処方などを行っています。

アトピー性皮膚炎やニキビは皮膚科でよくみる疾患ですが、悪化因子は年齢や生活習慣により一人ひとり異なり、保険診療だけで対応できないケースも多いと感じています。特に女性の肌は毎日使用する化粧品の影響が大きく、問診で使用している製品について確認し、症状を悪化させないようにスキンケア・メイク指導をしています。肌荒れは化粧行動や食生活、ストレスといった日常生活に問題があることが多いので、症状だけでなく薬を出すという対症療法では症状を繰り返すこととなります。

皮膚は体の一部なので肌をきれいにするためには体を健康にすることを考えなければなりません。症状を繰り返さないよう、悪化因子を見つけ出すように努め、肌だけでなく体の不調も改善できるような治療を提供することを目標としています。忙しい現代社会においてストレスを感じている方が多いので、当院を受診された

際には、リラックスして美容施術を受けられるよう、悩みを相談しやすい雰囲気づくりに配慮してスタッフ一同診療にあたっています。





第10回 KKR 札幌循環器セミナーを終えて

循環器科 神 垣 光 徳

今回のセミナーは7月17日金曜日に開催されました。本セミナーも平成18年の第1回から数え、今回第10回を迎えることができ節目の回でした。今回は、特別講演の2本立てとし、特別講演1は「慢性血栓塞栓性肺高血圧症の診断と治療 ～外科治療を中心に～」という演題名で、北大循環器・呼吸器外科助教の大岡智学先生に、特別講演2は、「肺高血圧の診断と治療」という演題名で東北大循環器内科講師の杉村宏一郎先生に講演して頂きました。

特別講演1では、北大での手術経験と現状について話して頂きました。2000年代初め頃の、北大での初手術からその後の数例については、現在のKKRの循環器科スタッフも大学の内科側の主治医として深く関わりました。当時の症例も提示されましたので、懐かしいとともに、この技術がしっかりと北大循環器・呼吸器外科の中で引き継がれていき、症例も10例を超えているということを知って感慨深いものがありました。

特別講演2では、肺高血圧全般について幅広く詳しくながら非常にわかりやすく話して頂きました。話を聞くまでは、狭い分野のため診断や治療の進歩は限定的であると理解していました。しかし、画像診断などの進歩に伴い、病態に対する理解が飛躍的に深まっており、それに伴いより適切な治療選択が可能になってきていることがわかりました。また、大学病院ならではの、非常に特殊な病態で一般的には救命困難と考えられる症例を軽快させた症例提示も数例あり、非常に深い感銘と強い刺激を受けました。

循環器疾患の中には、高血圧など非専門の方にとっ

ても身近な疾患もあれば、今回のように希少だが、その進歩について理解しておくべき疾患もあります。今後も、こうした話題を交互に織り交ぜながら、この会を続けていきたいと思います。また、いつも連携頂いている先生方におかれましては、こんな内容が聞きたいというような御意見を頂ければ、積極的に取り入れたいと思います。来年も皆様にふるってご参加頂き、会を盛り上げて頂ければ幸いです。今後ともKKR札幌循環器セミナーを宜しく願い申し上げます。

一口メッセージ：

白内障手術が 2泊3日（片眼）になりました

白内障手術（片眼）は、これまで3泊4日で行っていましたが、今年4月から2泊3日に短縮しました。前泊して頂き、手術翌日に退院です。日帰り手術が不安な方、全身疾患のある方など、入院ご希望の患者さんがおりましたら是非ご紹介下さい。

眼科 吉澤 史子

地域連携講演会のお知らせ

KKR札幌医療センターでは、さらなる診療の進化があります。当院新人ドクター、実は大ベテランによる当院の新しい一面をご紹介します。平日の勤務後ではありますが、診療所スタッフの方も一緒に、是非ご参加ください。当日はお弁当をご用意いたします。

日時：平成27年11月19日（木）

18：30～20：00

場所：KKR札幌医療センター 3階会議室

講演：

1. 脳卒中超急性期血管内治療の取り組み（脳神経外科 加藤正仁）
2. 心臓大血管手術—いかに体に優しくできるか—（心臓血管外科 久保田卓）
3. 腰椎変性疾患に対する新しい低侵襲な手術手技（仮題）（整形外科 竹内建人）
4. 当院の眼科手術（仮題）（眼科 吉澤史子）

問い合わせ先：地域連携室

一口メッセージ：

整形外科の医師が変わりました

2015年3月一杯で長年勤務された坂本部長が退職され、4月から新たに整形外科に加藤竜男先生が赴任されました。加藤先生は帯広厚生病院で主に下肢の外傷や膝・股関節の人工関節手術に携わっており、高齢者の救急搬送の多い当院では前方アプローチによる人工骨頭置換術を新たに始めております。上肢の外傷や疾患も北大整形外科の協力体制の中、可能な限り対応しています。内科的な合併症の多い脊椎疾患の患者さんも専門医がおりますので、どうぞご紹介下さいませ。

整形外科 重信 恵一

一口メッセージ：

耳鼻咽喉科からのメッセージ

当科では頭頸部癌に対する手術、放射線治療、化学療法などの集学的治療、甲状腺、唾液腺疾患の外科治療、ナビゲーションシステムによる鼻副鼻腔手術、CO2レーザーによる舌、喉頭腫瘍のレーザー手術を行っております。

頸部の腫瘍や手術が必要な鼻疾患の患者さん、いつでもご紹介下さい。地域連携室に連絡して頂ければ担当医の曜日に予約出来ますので、まずはご一報下さい。

耳鼻咽喉科 小林 一豊

一口メッセージ：

消化器科からのメッセージ

消化器科領域で行われる Interventional Radiology (IVR) は、X線透視やCT、超音波機器下で、血管IVRとして動脈塞栓術やリザーバー治療、非血管IVRとしてCT超音波ガイド下生検、膿瘍のう胞ドレナージ、様々な領域のラジオ波治療など広い領域をカバーしています。

当科では昨年より札幌医大と画像をリンクして厳密な術前カンファレンスを行い同院放射線科治療専門医に来ていただいて治療にあたっています。

今後も肝胆膵系の初期がんに対しては可能な限り低侵襲的治療を、進行がんに対してはIVR、化学療法、放射線療法などを併用した集学的治療を各科協力してまいりますのでよろしくご依頼申し上げます。

消化器科 藤田 淳

KKR 札幌医療センター 理念

「病院は人」のところで、活力ある病院、選ばれる病院を創ります
生命の尊厳を保ち、健康の回復につくします
温かな配慮で安寧（あんねい）につくします

基本方針

1. “生活の質” 向上に重きをおく医療を心がけます
2. 安全を確保し、時代を先取りした医療を推進します
3. 患者さんの声に耳を傾け、分かりやすく説明します
4. 医療の情報を進んで開示します
5. 地域に信頼される医療を目指します

編集後記

日ごとに秋も深まり徐々にストーブが恋しくなる季節になって参りましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、先日豊平区内で開催されました「地域医療構想ビジョンについて・地域包括ケアシステム」の講演会に参加し、患者様が安心して本人らしく住み慣れた地域で生活するために、地域支援病院として当院が取り組むべきことは何かを考える良い機会をいただきました。今後も地域の皆様と良い連携を図りながら患者様に最善の医療を提供できる病院をめざし努力していく所存でございます。

11月19日（木）は、当院にて「地域連携講演会」を開催致します。当院の取り組みをご紹介させていただき、顔の見えるスムーズな連携を図るためのきっかけができたらと考えております。皆様のご参加お待ちしております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

在宅看護・退院支援室 看護師 小松友希

KKR 札幌医療センター

〒062-0931 札幌市豊平区平岸1条6丁目3-40
TEL 011-822-1811(代)

連携いただいている先生方よりお受けしております
地域連携室直通 TEL 0120-552-303
FAX 011-832-9624

医療施設・患者・家族よりお受けしております
がん・緩和ケア相談 TEL 011-832-3260



地域連携・がん相談支援センター職員

センター長 磯部 宏 (兼副院長)
副センター長 齋藤 敦
センター師長 湯瀬 美佳子
地域連携室 長谷川 明河 看護師
島田 久子 看護師
大石 ひろみ 事務員
小口 知美 事務員

医療社会事業相談室 松田 知恵 社会福祉士 (主任代行)
木村 府佐子 社会福祉士
宮崎 雪枝 社会福祉士

在宅看護・退院支援室 室長 福島 綾子 看護師 (主任)
平田 公子 看護師 (主任)
小松 友希 看護師

がん相談担当師長 平山 さおり (兼緩和ケア病棟師長)